
菜種博士

ドリーム

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

菜種博士

【Nコード】

N2801G

【作者名】

ドリーム

【あらすじ】

フランス 乱巢村という不思議な村がある。名前の由来は先祖がフランスで大変世話になり、それなにあやかって付けた名前だが、当て字に問題があるとされている。そこには菜種を使った発明をする博士がいた。彼を村人は菜種博士と呼んでいる。さて今回の発明は？

ここ某県に、腐乱巢村フランヌという不思議な村があった。何故か朝からウルサイ。

人呼んで菜種博士こと、園道油そのみちゆく久55歳は雄叫びを上げた。

「わあ〜ついに、ついに完成したぞ。ワツハハハ」

それを聞いた助手の園道郁代そのみちいくよは、慌てて駆け込んで来た。

「とうちゃん、本当に出来たのけっ？」

「ばか者！ 研究所では博士と呼べと言っているだろうが」

「何を今更かつこ付けてるのよ。研究費用だって娘の私が稼ぎ出してるのよとうちゃんが16年前に発明した

馬豚糞ガス装置で、村民栄誉賞の副賞として毎年出してくれた研究費だって、既に打ち切られてるでしょうが」

「おお、そうじゃたな馬豚糞ガス装置バットンも近頃じゃな、この村も近代化して、近頃は

すっかり売れなくなつたしなあ」

「それより、とうちゃん大量生産の見込みがたつたと言うこと？」

「そうだよ、公害の出ない新しい油がな。菜種と竹の子の成分と桜の木にゴムの木のエキスをまで混ぜて

完成していたが、なかなか良い菜種油が出来んかったが、新しくスギ花粉の成分を混ぜたら、これが見事な油が出来たのじゃよ」

「とうちゃん・・・なに言ってるだかサツパリ分かんないよ」

菜種博士の言う事には。

菜種油でディーゼルエンジンは回せるオイルはあったが、何せ手間が掛かる工程で、どこの農家でも本格的に菜種を生産するものは居なかった。

そこで園道油久博士が桜の木に、菜種の花を咲かせることに成功した。

つまり移植したのだが、しかし世間からは桜に菜種の花を咲かせるとは邪道だと輦蹙を買った。

しかし竹の子の成分を混ぜたことで成長が早くなった。

それにゴムの木の成分加えたら桜の木の切り口にホースを充てる
と自然と菜種油が出てくるという手間要らずの

画期的な発明だったが今ひとつ油の成分が足りない。そこでスギ花粉を混合したら燃費が良くなった・・・筈だ？

「なに！？ やっぱり分からんって。まあとにかく出来たのじゃ」

「本当かい？ とうちゃん。それなら村長に見てもらおうか」

「おお～そうだな。旨く行けば村の活性化と発展に繋がるしな」

娘の園道郁代は、半信半疑の村長を連れて来た。

「ユクさんよ。あれから16年だっぺ完成だ完成だってロクな物
が出来んじやないかもこれ以上の研究費用は出せんぞなもし」

「村長、今度は間違いないって。そうだ。村長の息子が害車持つ
てるべえあれでテストしてみよう」

「ガイシャ？ 害車じゃなく外車だろうが・・・」

「いやいや、公害を撒き散らす害車と村のみんなが言つとるがな」

そして嫌がる村長の息子、悟を郁代は脅かして連れて来た。

「郁代、なんでオラの一千万もするランボロポロギーニを実験に
使うだに〜」

「なに断るって言うのけ？ それなら私に夜這いかけたのを村中
に・・・」

「わあ、わっ分かったよ。でもお前のとうちゃんの実験、本当に
大丈夫かあ」

「大丈夫よ。苦節16年の成果を信じてよ。これが成功すれば公
害のない燃料は地球に優しく、まさに世紀の大発明ノーベル賞だっ

て夢じゃないだべ」

そして実験が開始された。

「俺の車はハイオクだぜ。菜種油でエンジン壊れないかあ・・・」

「大丈夫だあゝ油を吸入するぞ。どうだエンジン掛けてみる」

ブルンブルンギャンギャンガアゝゝゝゝ

けたたましいエンジンの音が田園一帯に響き渡った。

グワゝゝゝんと、ランボロボロギーニが疾走していった。

まさに大成功だ。それを聞いて村人達が我も我もと新菜種油を使った。

それから一ヶ月、園道油久博士は二度目の村民栄誉賞を受賞する事になっていたが何故か村の診療所は、花粉症の患者で溢れていたと言った。

怒った村長は再審査するまで、村民栄誉賞を保留にした。

ハツゝゝハツクシヨゝゝゝゝゝん

「とうちゃん風邪引いたの？」

「いや、どうやら花粉症になったらしい」

「えゝいままで花粉症になったことなかったのに・・・やっぱり

あの新開発の菜種油が原因？」

怒った村長は村民栄誉賞を取り消して、研究費用もご破算となった。

「ちくしょう、こうなったら花粉症の薬を作ってやるぞ」

なぜか村民栄誉賞に拘る博士、一向に懲りないようである。

了

(後書き)

これは不真面目なギャグ小説である。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2801g/>

菜種博士

2010年10月31日01時43分発行